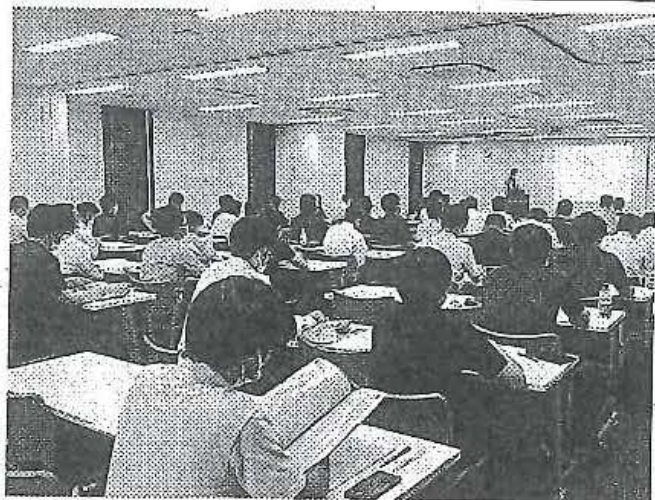


最新技術と品質 確保へ理解深める

日測協、名古屋で講習会

日本測量協会（日測協、清水英範会長）は9月30日、発注機関を対象とした公共測量講習会を名古屋市中村区のウインクあいちで開いた。写真。公共測量業務を発注する国や自治体の実務担当者など約50人が参加。



最新の測量技術や品質確保について理解を深めた。中部地方整備局と中部地方測量部、愛知県、名古屋市が後援した。

冒頭、日測協中部支部技術センター測地検査担当の馬場靖幸氏が講習会の目的などを説明。永田勝裕中部地方測量部次長は「国土地理院における最近の取り組み」と題し、昨年、静岡県熱海市で発生した土石流災害への公共測量成果の活用による標高変化量の抽出などを解説した。

中部地方測量部の村松泰敬氏（測量課公共測量担当）は「公共測量の実施に当たって」、馬場氏は「公共測量における基準点測量の実際」、日測協測量技術センターの渡辺信之氏（測量監理担当）は「公共測量における数値地形図作成と新技術の活用」、日測協中部支部技術センターの上村和彦センター長は「公共測量成果の品質確保について」をテーマに講演した。